

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「個別研究の活性化」

提出日 2022年8月24日

 長期戦略テーマの責任者  
 (統轄部署)

 研究推進社会連携機構長  
 土井 健司  
 (研究推進社会連携機構)

### 1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略 (テーマ名)	統轄部署
3 研究	(1) 個別研究の活性化	研究推進社会連携機構
<b>内容</b>		
<p>各教員が先端的研究に取り組み、知の創造や社会への貢献によって、高い研究力を誇る大学としての位置づけを確保する。特に国際基準による教員一人当たりの論文産出数等は、大学の社会的評価やランキングと直結する重要な指標であり、個別研究を活性化させ、論文の量および質の向上に結びつける。</p> <p>個人研究を推進するために、大きく二つの原則を新たに定める必要がある。一つは従来からの平等主義を改めて競争原理を導入することであり、現在の研究費の一部を原資として、若手教員や外部資金獲得をめざす教員、海外研究機関等との共同研究を進める教員、実績のある教員へ傾斜配分を行うことを検討する。そのためには研究の評価が不可欠であり、国立を含めた他大学の事例を参考にしながら、エルゼビア社の Scopus 等のデータを活用した評価の仕組みを確立する。</p> <p>もう一つは、研究実績の高い教員に対する支援強化と環境整備である。URA による科研費申請業務の支援に加え、業務処理の軽減 (秘書機能)、教育業務の減免、研究場所の確保など教員の現実的ニーズに即して支援を進める。</p> <p>また、より本質的な課題は、教員が十分な研究時間を確保できなくなっていることにある。教育、行政に割く時間が増加しており、これらの負担が特定の教員に集中して個人間格差が拡大する傾向にあることから、行政のあり方の抜本的な改革や、教育・研究・行政各面での実績を総合的に評価する教員人事制度の確立等を検討する。</p> <p><b>【フェーズ I の Total Review】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・URA や産官学連携コーディネーターによる科研費申請や外部研究資金獲得の支援策を進めており、数年後の指標クリアをめざしている。</li> <li>・「KG 版戦略的統合型 DB」によって学内の研究力を分析し、支援・助成を行うことで活性化をめざす。</li> <li>・すでに研究者の約 40%が過去 5 年間科研費未申請であることが判明しており、支援対象をどう定めるか検討が必要である。</li> </ul> <p><b>【フェーズ II に向けた課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優れた研究成果に対する学内表彰・報酬の導入の検討</li> <li>・企業 (ベンチャーを含む) のキャンパス内誘致や人材・研究交流</li> </ul>		

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「個別研究の活性化」

提出日 2022年8月24日

 長期戦略テーマの責任者  
 (統轄部署)

 研究推進社会連携機構長  
 土井 健司  
 (研究推進社会連携機構)

### 指標 1

指標	内容					
指標名	科研費の新規申請課題数					
定義・算式	科研費の新規申請課題数					
現状値 (指標設定時)	211 (2016 秋・2017 秋申請数の平均値)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	240 件 [2020 秋・2021 秋申請数の平均値]		270 件 [2023 秋・2024 秋申請数の平均値]		300 件 [2026 秋・2027 秋申請数の平均値]	
実績値	2019 年度	210[2018 秋・2019 秋]	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度	188[2019 秋・2020 秋]	2023 年度		2026 年度	
	2021 年度	173[2020 秋・2021 秋]	2024 年度		2027 年度	

### 指標 2

指標	内容					
指標名	科研費の研究者当たりの採択数					
定義・算式	直近 2 年度間の科研費新規・継続採択数 / 申請有資格者数					
現状値 (指標設定時)	0.31 [2015, 2016 年度]					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	0.35 [2020, 2021 年度]		0.39 [2023, 2024 年度]		0.43 [2026, 2027 年度]	
実績値	2019 年度	0.30 [2018, 2019 年度]	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度	0.33 [2019, 2020 年度]	2023 年度		2026 年度	
	2021 年度	0.33 [2020, 2021 年度]	2024 年度		2027 年度	

### 指標 3

指標	内容					
指標名	科研費の研究者当たりの採択数 (専任教員 45 歳以下 (若手))					
定義・算式	45 歳以下の直近 2 年度間の科研費新規・継続採択数 / 45 歳以下の申請有資格者数 (文系=専任教員、理系=非専任込み、分担金除く) ※2015 年度=2015 年度申請・2016 年度実施					
現状値 (指標設定時)	0.33 (文)、0.69 (理) [2015, 2016 年度]					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	0.41 (文) 0.72 (理) [2020, 2021 年度]		0.49 (文) 0.75 (理) [2023, 2024 年度]		0.58 (文) 0.80 (理) [2026, 2027 年度]	
実績値	2019 年度	0.33 (文) 0.63 (理) [2018, 2019 年度]	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度	0.41 (文) 0.68 (理) [2019, 2020 年度]	2023 年度		2026 年度	
	2021 年度	0.51 (文) 0.59 (理) [2020, 2021 年度]	2024 年度		2027 年度	

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「個別研究の活性化」

提出日 2022年8月24日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	研究推進社会連携機構長 土井 健司 (研究推進社会連携機構)
-----------------------	--------------------------------------

### 指標 4

指標	内容					
指標名	大学全体としての FWCI の平均値					
定義・算式	Scival:直近5年間のデータ (自己引用除く)				モニタリング指標とする	
現状値 (指標設定時)	0.58[2013-2017]					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	モニタリング		モニタリング		モニタリング	
実績値	2019年度	0.60[2015-2019年度]	2022年度		2025年度	
	2020年度	0.69[2016-2020年度]	2023年度		2026年度	
	2021年度	0.72[2017-2021年度]	2024年度		2027年度	

### 指標 5

指標	内容					
指標名	論文数における国際共著論文の割合					
定義・算式	Scival:直近5年間のデータ (自己引用除く)				モニタリング指標とする	
現状値 (指標設定時)	22.9%[2013-2017]					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	モニタリング		モニタリング		モニタリング	
実績値	2019年度	25.4% [2015-2019年度]	2022年度		2025年度	
	2020年度	27.2% [2016-2020年度]	2023年度		2026年度	
	2021年度	28.7% [2017-2021年度]	2024年度		2027年度	

### 指標 6

指標	内容					
指標名	年間の外部研究資金獲得総額					
定義・算式	科研費、JSPS 振興資金、受託・学外共同・寄付研究費、財団からの研究助成金の総額/年					
現状値 (指標設定時)	11.2 億円[2016 年度]					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	12 億円[2021 年度]		15 億円[2024 年度]		20 億円[2027 年度]	
実績値	2019年度	10.5 億円[2019 年度]	2022年度		2025年度	
	2020年度	10.6 億円[2020 年度]	2023年度		2026年度	
	2021年度	11.7 億円[2021 年度]	2024年度		2027年度	

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「個別研究の活性化」

提出日 2022年8月24日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	研究推進社会連携機構長 土井 健司 (研究推進社会連携機構)
-----------------------	--------------------------------------

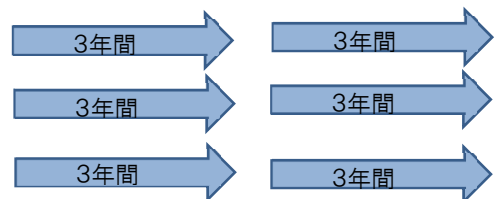
### 2. 実施計画ロードマップ

実施計画		担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
①	科研費申請支援制度の充実 (申請支援)	研究推進	必要なし	3年間			3年間			3年間		
②	外部資金獲得者支援制度の 充実(採択後支援)	研究推進	必要なし	3年間			3年間			3年間		
③	研究実績を評価する仕組み の構築	研究推進	必要なし	3年間			3年間			3年間		
④	研究力分析ツールの活用方 法の検討(2021年終了)	研究推進 (学長室、 総合企画 部)	必要なし	3年間								
⑤	国際的に評価の高い研究成 果の創出	研究推進	必要なし	3年間			3年間			3年間		
⑥	学内研究費や外部資金の間 接経費等を傾斜配分する方 策の検討	研究推進	必要なし	4年間								
⑦			必要の有無 を選択くだ さい。									
⑧			必要の有無 を選択くだ さい。									
⑨			必要の有無 を選択くだ さい。									
⑩			必要の有無 を選択くだ さい。									
【備考欄】												

#### ※想定される実施計画の例示

- ① 学内研究費や外部資金の間接経費等を傾斜配分する方策の検討
- ② 研究実績の高い教員に対する支援と環境整備
- ③ 教育・研究・行政の実績を評価する教員人事制度の検討
- ④ 「Scopus」の分析ツール「SciVal」を活用した研究支援
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

#### ※ロードマップ策定作業用記号



# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「個別研究の活性化」

提出日 2022年8月24日

 長期戦略テーマの責任者  
 (統轄部署)

 研究推進社会連携機構長  
 土井 健司  
 (研究推進社会連携機構)

### 3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

#### ◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

#### ◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

#### ◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

# I. 長期戦略テーマ別帳票

## テーマ「個別研究の活性化」

提出日 2022年8月24日

 長期戦略テーマの責任者  
(統轄部署)

 研究推進社会連携機構長  
土井 健司  
(研究推進社会連携機構)

### 4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	<p>外部研究資金の獲得額については、近年の減少傾向からやや持ち直した（2017年度：10.9億円、2018年度：9.6億円）。全体として研究者数が増えず、その一方で外部研究資金の獲得に積極的な傾向のある若手研究者数（外部研究資金を原資として雇用していた博士研究員等）が減少している中、数字的には厳しい状況が続いている。一方、今年度より URA や産官学連携コーディネーターによる積極的な外部研究資金獲得支援を進めており、数年後には成果に結び付けられるよう取り組んでいる。一方で、国際共著論文の数字が好調である。この2～3年にわたって急激に数を伸ばしていることから、要因を分析してさらなる増加策を検討・実施する。</p>
2020年度	<p>新型コロナウイルスの影響により、実施課題の延長や研究費の繰り越し申請が多数発生した結果、継続課題を保持する研究者が増え、2020年秋の科研費申請数が急減した。このことが指標1に大きく影響している。この状況はベンチマーク対象としている私立大学も同様の傾向であった。</p> <p>その一方で獲得した外部研究資金はわずかながら上昇した。これは大型研究プロジェクトが複数産まれたことに起因している。こうした点を強みとし、引き続き URA や産官学連携コーディネーターによる積極的な外部資金導入を進めていきたい。</p>
2021年度	<p>2016年度から始まった外部研究資金獲得額の減少傾向に歯止めがかかり、一転して上昇に転じた。研究者数については横ばいが続き、新型コロナウイルスの影響もあり科研費の申請数は以前に比べると低調な状態が続いているが、中型種目である基盤Bの獲得件数が増え、総獲得額については昨年比で上昇した。ポストコロナにおける新たな局面に入ったという視点を持って現状の理解に努めていきたい。</p> <p>その中で、これまで本学の研究者があまり目を向けてこなかった外部研究資金に対し、URA および産学連携CDを中心に獲得に向けて尽力した。各外部研究資金の特性を見極めた上で研究者に対し、申請書の構成検討から積極的に関与した。その結果、新規外部研究資金を獲得することができた（例：JST ギャップファンドプログラム、NEDO 若手サポート事業など）。</p> <p>また、モニタリング指標の国際共著論文の割合が引き続き堅調である（Scivalの分析対象となるScopusに掲載されている論文に限る）。新型コロナウイルスの影響が、単純に国際共同研究の低下につながる一つの特徴として受け止めている。</p> <p>さらに、研究環境改善に向けた施策として博士研究員雇用促進制度の公募を開始した。また、研究者の研究時間確保に向けてパイアウト制度の検討に着手した。本学におけるパイアウト制度は、授業代替のための非常勤講師雇用費用を公的研究費の直接経費から支払えるよう調整を進めていく。</p>
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	